

# 製品価値の向上と コストダウン同時実現セミナー

～ 製品価値は機能とコストのバランスで決まる！ ～

開催日時 **2024年 7月 4日(木)～ 5日(金)** **オンライン**  
**2025年 3月11日(火)～12日(水)** **オンライン** 各回とも2日間 10:00～17:00

対 象 

- ・上流プロセス段階からのコストダウン実現を目指す、開発設計・開発購買・生産技術部門のマネジャーおよびスタッフの方
- ・コスト改革・原価企画の躍進に携わる方
- ・事業戦略立案をされている方 など

講 師 **大塚 泰雄 氏**  
JMA専任講師  
(株)MEマネジメントサービス 常務取締役

参加料(税込) 法人会員：103,950円/1名  
会員外：115,500円/1名

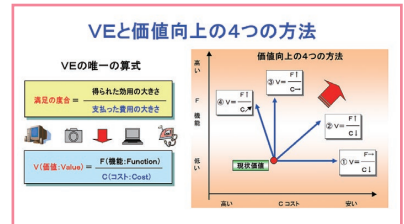
※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。  
※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。  
<https://www.jma.or.jp/membership/>  
※お申し込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申し込みください。

## 本セミナーのねらい

- ・顧客ニーズにあった高品質でコストの安い製品が求められています。そこで、原価の基礎知識を学び、製品価値を向上させる方法を、コンサルティングの現場で使用している「VE改善ソフト」を活用し効率的に学んでいただきます。
- ・コストダウンで大切なことは、製品機能を明確にし、技術的根拠より目標原価を設定することです。本セミナーでは、目標原価である製品の理想原価を設定し、現状とのギャップをコストダウン余地とし捉え、多岐にわたるコストダウン手法をもとに、大きなコストダウンを実現する方法を学んでいただきます。
- ・近年、製品機能において、ウエイトが高くなってきた感性機能(意匠機能・魅力機能)へのコストのかけ方を、本来の製品の使用機能と合わせ、最適コストの配分方法・考え方をVE・TRIZのコストダウン事例について紹介します。

## 本セミナーで習得できること

- ・事前にコストダウン余地(コストダウンの可能性金額)を予想する考え方
- ・製品原価の理想原価(あるべき原価)の設定方法
- ・製品の価値を機能とコストのバランスで考えるVE手法
- ・1製品に1,000のアイデアを出す実践的な6つのステップ
- ・システムチックにアイデアを発想する実践的なTRIZの活用方法
- ・ウエイトが高まる感性機能へのコストのかけ方



## ■ プログラム

2日間 10:00～17:00 [昼食] 12:00～13:00

### 1 原価の基礎を学ぶ

- － コストダウンに欠かせない原価の知識 －
- (1) 会社のお金の動きと利益
- (2) 材料費、労務費、経費とは何か
- (3) 材料費の計算のやり方
- (4) 加工費の計算のやり方

### 2 コストダウンのねらい所と改善余地の考え方

- － 事前にあるべき原価を想定する必要性 －
- (1) まずは製品別・事業別原価データを収集する
- (2) 設計が改善すべき対象製品の選定方法
- (3) 製品のコストダウン余地を分析する
- (4) コストダウンテーマの見つけ方

### 3 製品の最適構造を追求するVEとは

- － 目的機能にける最適コストの追求 －
  - (1) VE (価値工学) とは何か
  - (2) 目的機能追求と機能定義
  - (3) 機能評価と改善の方向性を決定する
- 演習1 製品の機能評価追求

### 4 アイデア発想のポイントと実践のステップ

- － 1つの製品にアイデアを1,000件出す方法 －
- (1) アイデア発想の目的とポイント
- (2) アイデア発想の実践的な6つのステップ
- (3) 使えるアイデアに育てるには

### 5 世界の発明原理TRIZ(トゥリーズ)を使ったコストダウン

- － アイデアを効率的にシステムチックに出すツール －
  - (1) TRIZとは何か
  - (2) 創始者アルトシュラーの発見とTRIZの特徴
  - (3) 技術的矛盾を解消する対立マトリックスの使い方
  - (4) 対立マトリックスを実務で使いこなす
  - (5) アイデア発想に6,000ある世の中の科学的原理・法則を活用する
- 演習2 画期的なアイデアの発想

### 6 感性VEの考え方とコストダウン事例紹介

- － 感性機能へのコストのかけ方とコストダウンの実践 －
- (1) 感性機能と評価の考え方
- (2) 感性機能を織り込んだ感性VEの考え方
- (3) VE・TRIZを活用したコストダウン事例紹介
- (4) コストダウンの実践にあたり

### 7 実践で使う前にVEの使い方をマスターする

- － ソフトを使って効率良く分析する －
- (1) コストダウンの可能性分析
- (2) 製品機能分析
- (3) 製品機能コスト分析
- (4) 改善の方向性決定
- (5) アイデア発想
- (6) 改善の評価

※プログラム内容は変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

